



2018-2019 年度 RI 会長テーマ

RI 第 2 6 1 0 地区
東となみロータリークラブ会報

2018-2019 年度 No.28

事務局(新) 〒939-1652 富山県南砺市福光新町 56

TEL 0763-55-6125 F A X 0763-55-6147

h.tonamirc@gmail.com

2018-2019 年度 会長 坂井彦就、幹事 桧原やよい



インスピレーションになるう

(バリー・ラシン会長)

「庄川クリーン大作戦」・ 例会 記 録

「庄川クリーン大作戦」

平成 31 年 6 月 2 日(水)午前 7 時～



今年 は 13 団 体、250 名 を 超 え る 参 加 者 が あ り ま し た。
特 に 昨 年 か ら の 参 加 の ケ ア ポ ー ト 庄 川 さ ん や、東 山 見
P T A さ ん 等 が 組 織 的 に 清 掃 し て 頂 き ま し た。例 年 通 り、
終 了 後 に、関 電 さ ん か ら は、花 の 種 の 提 供 が あ り ま し た。
(H P に、写 真 集、掲 載 し ま し た)



第 1952 回例会

平成 31 年 6 月 12 日(水) よいとこ井波

1. 点 鐘 会長
2. 国歌「君が代」斉唱
3. ソング：奉仕の理想
4. 四つのテスト唱和
5. ゲスト：高岡市万葉歴史館学芸課長 新谷秀夫氏



6. 会長の時間：いよいよ最終月です。先週は、「庄川クリーン大作戦」お疲れ様でした。250 名ほど参加され、パンが不足し、私などはもらえませんでした（嬉しい誤算）。さて、本日は新谷さん宜しくお願ひ致します。本日の理事会で、山田由理枝さんに関する件が出され、本日メイキヤップ予定して、お詫びをしたいという事でしたが体調不良で欠席、理事会決定までしたことなのに、本人・砺波 RC の対応に疑問が出されました。次年度の事で、7 月 3 日第 1 例会は三楽園で、夜間で。理事会例会後、懇親会です。
7. 幹事報告：①理事会報告：**来期ガバナー公式訪問の日程が変更となりました。当初の予定の 8/7 から、9 月 4 日になります。**②来期の新入会員を勧誘しやすくするために、会費月 16000 円を最初の半期半額というのはいかがでしょうかという案も検討されました。それから、高瀬神社奉納剣道大会の優勝杯・次勝杯ですが、名称が旧井波庄川 RC のまま、錆が出てきているという事で、新調する予定ですが、見積もりをとり、青少年奉仕委員会で担当し、こちらから出すことにします。但し、本会計も苦しいので、これについては、会員数で割って各自負担で考えています。②例会変更は事務局まで確認。
8. 出席委員会 18 名中 14 出席 (77.78%)
9. 委員会報告：①齋藤彰会員（宮窪ゴルフ同好会会長代理）：先日の 5RC 親睦ゴルフに、小西、齋藤、山下、宮窪の 4 会員が参加、団体戦成立、5RC 中 4 位の好

成績でした。次回は当クラブがホスト役、宮窪次期幹事が挨拶されました。



②40 周年記念誌（山本武夫担当）：第 2 校もあがり、出来上がりも間近になってきました。本日、各執筆者の皆さんに確認をお願いします。年度末までには、細部の修正をして、完成となります。③R 財団委員会（山本武夫会長）：先週高岡市教委を、高岡歯科医師会の先生と訪問、次年度 R 財団事業の準備のため、新しく始める 8 小学校の練習用の溶解瓶と薬剤を提供してきました。

10. ニコニコBOX(SAA：本日 5 名)

坂井会長：新谷様ようこそ、卓話宜しくお願いします。

小西会員：創立 40 周年記念誌「40 年のあゆみ」の原稿を拝見致しました。山本武夫記念誌事業委員長のご苦勞に敬意を表します。大変立派な記念誌となります。

桧原幹事：新谷様ようこそ、卓話宜しくお願いします。

齋藤会員：早退させてください。

山本武夫会員：本日は得永会員卓話予定でしたが出張で代理です。高岡市万葉歴史館の新谷秀夫学芸課長さんをお願いしました。大変、現在ご多忙中で、本日は幸運にも予定が空いておりました。



ゲスト卓話 「新元号『令和』と富山

高岡市万葉歴史館学芸課長 新谷秀夫氏

山本武夫会員（紹介者：得永会員代理）：先週、高岡市教委で、米谷教育長さん（高岡万葉 RC）に、次週例会で高岡市万葉歴史館の方を卓話にごゲストで呼びたいけど、紹介してほしいとお願ひしたら、新谷秀夫さんを教えて頂きました。その足で、万葉歴史館に向かい、お会いし、予定を

聞いて偶然にも空いておられてお願いを致しました。新谷さんは、東大阪市の生まれですが、ご両親は氷見の出身だそうです。H5の4月から勤務しておられ、“万葉”の専門家であります。県内の若手研究者に贈られる第27回とやま賞を受賞されておられます。

新谷課長（配布資料あり）：4/1 官房長官が「令和」の額をもって、記者会見しておられた時間、私は北日本新聞の原稿の締め切りに追われて、見ていませんでした。今回の新元号「令和」が万葉集と関わりがあること、また富山にかかわることを今日はお話しさせていただきます。「万葉」の研究者・専門家として、ロータリークラブでは、高岡市内、富山市内の殆どのクラブで、また、砺波 RC でもお話をさせて頂く機会を得ましたが、これで一段落か思っていましたら、さらに遠いこの井波まで来ることになりました(笑)。

さて、今回の新元号「令和」について、異例なことには、従来は中国の史書・五経などの漢籍から引用してことからはずれ、また、連続した字を初めて、ばらばらの2文字をつないだことです。また、「令」という字は、中国では「麗」という字の略字であります。(別の言い方をすれば、現天皇が退位されたときにお呼びする称号としては、史上初の離れた文字、略字という事からすると、大変失礼なことにあたります。)

しかしながら、「万葉」からという、その出典を紐解くと実に深いわけがあります。その「令和」の典拠は、『梅花の歌 32 首』の序文(歌からではありません)で、「初春の令月にして、気淑く風和ぐ(はつはるの れいげつにして きよく かぜやわらぐ)」から、引用されました。これは、大宰帥(だざいのそち：大宰府の長官：国の外相かつ九州地方の統率者)の大伴旅人(たびと)が天平2年(730年)正月13日に邸宅に臣下(九州の各地の代表者)を招いて宴会を開いた時のものです。今年は大変正月から良い気候で、善い年である、みんなで楽しく膝突き合わせて飲んで楽しもう、愉快地に庭の梅を題として和歌を詠もう、和やかに皆で国を治めていこうという意思表示をしたものです。つまり、そこには中国の古来、理想国家を目指す『君臣和楽』という意図が表れているのです。新元号の謂れや出典にかかわった人が取りざたされたときに、とうとう高志の国文学館の中西進館長とわかり、ただ、その謂れがあいまいにマスコミが取り上げたので、「万葉」の専門家としては、正しく理解をして頂きたいと、詳細なご説明をさせて頂いております。

そして新元号「令和」と富山の関りについては、越中の国司でありました大伴家持は、この大宰帥の大伴旅人の息子ですが、天平勝宝2年(750年)に、20年前の筑紫の国での春苑の梅の歌に追和する1首を、越中で詠んでいます。旅人の思いが家持に影響を与えた痕跡がはっきりわかります。越中の国司としての家持も、国を和やかに治めようという『君臣和楽』という父親の思いと共通する思いがあったのだと思われます。

さて、この4月5月の2か月で、高岡市万葉歴史館の入場者は昨年1年分と同じになりました。なかなか対応に苦心しております。私自身も、4月から、わずかに休みが4日ほどです(笑)。この万葉に関する資料がたくさん万葉歴史館には、展示してあります。まだ、万葉歴史館にお越しでない方は是非、ご入館下さい。お待ちしております。

(会報・写真：山本・川原、HP：山本)

